〔生化学　第72巻　第3号，p. 151，2000〕

アトモスフィア

今，不思議に思うこと

和田　博
本会名誉会員

平成4年3月末日に大阪大学医学部を退官して以来，早や8年を迎える．退官以後，研究に従事することもなく，新しい文献も読んでないので，本誌編集部より，急にこの欄に寄稿せよとのことで，今とまどっている．

時々，看護学校や市民大学で講義しているが，最近，左右田健次教授のお誘いで，この4月より2年間，関西大学で，新入生を相手に，一般教養講座の一部を担当することとなった．主題は「いのちを学ぶ」というもので，6人の教官が担当，聞く学生は500人が2組で，2年に及び，教科書をあらかじめ関大出版会より発行するという大規模なものである．

小生の分担は「人間とは何か—脳の働きを中心として」というもので，目下，その原稿づくりに四苦八苦している．

そこでこの紙面を借りて，この本にも役立つようにと，小生の“今，不思議に思っていること”を三つあげさせて頂く．もし，読者の方で，名解答をお持ちの方はご教示を賜りたい．(FAX 0743-72-2121，薄謝進呈)

小生は退官時に，「生命のしくみ—その誕生から脳の働きまで(㈱化学同人)」を出版したが，近く廃刊となるらしい．新しい本はこの本を土台としており，次の三点を書き加えたいと思っている．

1．人類にはなぜいろいろな言語があるのか？

人類は今から300万年以前に，猿人より出現した．そして，はじめは個人単位で生活し，猛獣の餌食となっていたが，200万年前以後，石器を作り，共同生活をしてマンモスなどを倒した．この時にはすでに言語を話していたに違いない．その後，多くの民族が発生し，現在3000種以上といわれる言語が使われている．人類が一系統から発生したものとすると，何故，共通の言語が使われていないのか．もし，世界が共通の言葉を使っていたら，世界の平和はもっと早くもたらされていたであろうに！

2．人間までの進化について

最近の分子生物学の進展はものすごく，人類のゲノムも近く，完全に解読されるらしい．

しかし，原始単細胞より人類までの進化の道程は，どうなってきたのであろうか？　筆者はとても，DNAの“Mutation and Selection”では説明つかないと思っている．と言って今西錦司先生の「すみわけ」学説を信奉するものでもない．最近の50年間だけでも，若者の顔貌や歯並びは大いに変化していると聞く．最近の若者はみなハンサムになっている．これらは遺伝と無関係であろうか？

3．動物と植物との関連について

ある種の単細胞生物にクロロフィルが作られ，それから酸素が発生し，植物と動物が分化したことは間違いない．しかし，最近われわれの脳にもモルフィネの受容体や，カンナビノール（大麻）の受容体があることが明らかとされた．カイコは桑の葉のみを好み，ある種のアゲハ蝶はそれぞれ特定の木の葉のみを好むという．薬は「草のエキスで楽しくなる」の意で，人間も，長年大いに植物の恩恵に浴しているが，はたして植物と動物の進化の間には，遺伝子の交流があったかどうか，如何か！

以上，三点大変くだらぬ疑問と思われようが，生化学は略語だらけのファクターの発見ばかりではなく，生物界全体の問題も，時には，考えてほしいと思っている今日この頃です．